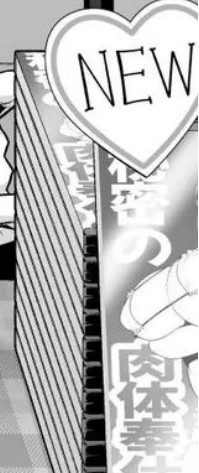


『えっ…何で…何で…』
 「そっ…それはこっちのセリフだよ…
 友達と旅行じゃなかったの？
 それに…」のDVD何？
 むっ胸もそんな「出して…」

『えっ…何で…これは違うの…
 なんていうか友達と…
 趣味でやって…』

「あみちゃん？なんかトラブル？
 大丈夫？お客さんゴメンね
 このコ今迷惑してんだよね
 後ろのお客さんもつかえてるし
 購入しないなら他いつて貰って
 いいかな？」

「えっ…は…はい…」



500円/月

僕は…
 もう確かめる必要もないのに
 すぎるような思いで
 動画に課金をした…

「亜海ちゃん…
 そんなのありえないよね…」

動画を再生した瞬間に後悔した…
 そこには…

1,000円/月
 会員になる

ビュルビュルプラン ♥
 パックナンバーを見る▶

心臓が飛び出しそうなほど
 バクバクと脈打った…
 ウワサは本当だった…

僕の彼女、向井亜海が
 ハンな男と一緒に
 同人AVを売っている…

会場を後にしても
 あの時の光景が
 ハツキリと思い出される…
 そして僕は知りたくなかった
 事実を思い知ることになる

確かあのサークル名…
 『カメコ…おじさん…?』

沢山の女の子が
 下品なコスプレをして
 犯されている…ように見えるが
 どうやらお金を
 払わないとこの先は
 分からないようになってる…

ハハハ

あられもない
姿で男たちに囲まれ
笑顔を振り撒く僕の彼女
亜海ちゃんが居た

こんな姿見たくなかったのに

僕はその動画を
見られるのを
辞められなかった

おっぱい

えへへ

おっぱい

おっぱい

へこ

へこ

「ほらあみちゃん♥もっとおっぱいブルブルさせてみてがに股のままだね♥」

「うっうっですかあ♥えへへ♥ちよと恥ずかしいですう♥」

「ハイ次ッダブルピースで目線ごっち下さ〜い♥」

「うっうっ♥もっもっうっうっですかっ」

「コラコラッ! ダメだぞあみ♥大事なお客様なんだから」

「しっかりサ〜ビスできないとちんぽも...」
「コいじるのも無しだぞ?」
「出来る? あみ♥」

「あううっ♥おじさまあ♥わかりましたあ...♥」
「それじゃ次は...」

ひびび

ひびび

おっぱい

「皆さんのカメラをおじさんだと思っていつも通りのパコハメ懇願ポーズしてご覧♡」

「あうう♡お…おちんぽお
おじさまのおちんぽお♡あみの
生オナホにぶち込んでくりゃさいい♡♡」

「ほらあみ♡くぱくぱは？
まんこで愛情表現も忘れずにね♡」

「おおおお♡あみちゃんの
生チン媚びポーズ♡
これは絶好のシャッターチャンス!!笑」

「奥までよくみえるよ
あみちゃん♡」



「あれれw
あみちゃんおまんこ
お汁垂れてるよw」

「本気でおちんぽ欲しく
なっちゃったんだ？w」

「ほらあみ♡
どうなんだ？
ちゃんと答えなさい」

「あはははw
だらしないマンコだねw」

「それじゃあそんな
堪え性のないあみの
オナホ穴」



「おじさんが使うところ
皆さんに見てもらおうね♡」

「おおおお、生挿入まで
撮影できるとは♡」

「うわあ、待ちきれなくて
まんこうねうねしてる」

「ほらあみ♡
撮影して
貰ってるのも
忘れずにね♡」

「あつ♡ハイ♡
皆様♡これから
おじさまおちんぼ♡奉仕隊
4号のオナホまんこでえ♡
大好きなおじ様のおちんぼ
ゴシゴシして差し上げますのでえ♡
是非最後までご覧ください♡♡」



「ふふふ、体勢的に
ゴシゴシされるのは
あみちゃんのまんこ
だと思っケドw w w」

「念願の挿入！
良かったねあみちゃん♡」



「うっわ、デカ！
こんなのマスコに
挿入んのか？w」

「おつw
ずっぽし挿入ったw」

「あははw
まんこ大喜びw
良かったね
あみちゃん♡」

「こっ見ると
ホントに
オナホみたい
ですねw」

「あみ♡偉かったね♡
ご褒美に大好きなまんこと乳首
同時にほじくってあげるからね♡」
『んぎい♡♡♡♡♡♡
これしゅきい♡♡♡♡♡♡
ありがとう♡ぎい♡♡♡♡♡♡』

ほじ♡
ほじ♡
ほじ♡

ほじ♡
ほじ♡
ほじ♡

ほじ♡
ほじ♡
ほじ♡

あみ♡♡♡♡♡♡
ほじ♡♡♡♡♡♡

「今日はいい子に出来て
偉かったね♡
よしよし♡♡♡」
「おおお♡
なんて表情W
気持ちよさそうだね
あみちゃん♡」

「あみ♡♡♡♡♡♡
陥没乳首が
吸いついて離れなく
なっちゃったよ?W」

「ちゅ♡ちゅ♡
しちやつてW
甘えん坊の
乳首ですねえ♡」

「それじゃあ
あみ♡そろそろ
出すから!」

あみ♡♡♡♡♡♡
ほじ♡♡♡♡♡♡





宙吊りにされ
かわるがわる男たちに
使われていく彼女を

「最高ですよぉ♡
いつもあみちゃん
シコってる分ココで
処理できるんですからねっ♡
奥まで締まって
すぐ出そうですよぉ♡」

「いやぁ羨ましいですよ
カメコおじさんさん」

「ほらあみちゃん♡
笑って笑って♡」

「あはははww
表情硬いよ♡
目線こっち下ささい♡」

「どうですか？
あみちゃんマン」の
具合は？w」

「はははw恐縮ですw
むしろすみませんねえ
中古でw」

「いえいえw僕らもこうして
若くて可愛い女の子に
ありつけるわけですからね♡
こりゃあ課金したよ♡
甲斐がありましたよ♡」



「わわわらしい♡♡♡
だいじゅきれすう♡
おじさまがいちばんう♡
ずつとそばに置いておいて
くりゃさい♡♡♡」

「はははだったら」



「あみちゃんも
よかったね♡
おまんこ貸出しの
ご褒美にこんなの
プレゼントして貰えて♡」

「うわわ
中でばんっばんに
膨れてますよ乳首♡」

「皆さんに気に入って
貰えてよかったね♡あみ♡」

「これからも
おちんぼご奉仕隊として
いつでも性処理するんだよ？」

『あみ♡♡♡』

「あみのエッチな躰で
「スプレとか動画で
いっばい稼いでおじさんに
いっばい貢ぐんだよ？」

『は♡♡♡いっばい
いっばい貢ぐんだよ？』
『あみ♡♡♡』

「はははW約束できるなら
ずっと使ってあげるからね♡
これからもいっばいみんなの
オナペとして頑張ろうね♡あみ♡」

『うれしい♡うれしいでしゅ♡
一生尽くします♡おじさまあ♡
あううう♡きしゅでイグうう♡』

僕はあみちゃんとして
まだ本番もしたこと
なかったのに…
なんでこんな最低な男に
そんな嬉しそうにキスを…

「それでは最後に一言
頂きましようか♡」

おじさま おちんぼご奉仕隊
4号 あみ
あみ♡♡♡
あみ♡♡♡

「ほらあみ♡笑顔でね♡」

『は♡♡♡』

おじさま おちんぼ ご奉仕隊
4号 あみ
おちんぼ
おちんぼ
おちんぼ

「皆様あ…本日はあ…♡♡
おじさまおちんぼご奉仕隊4ごおうっ…♡
向井あみのお…♡撮影会に…参加下さりい…
ありがとうございます♡」

「おっ…おまんこお…オナホ穴もお…♡♡
いっぱい使ってえ…いっぱい
お射精して頂きましたあ♡」

「…これからもお…
おじ様の元でえ…
皆様のオナペレイヤ―としてえ…
頑張りますのでえ…
ご支援よろしくおねがい
いたしましゅう♡♡♡」

「そういえば…この前イベントに来た人
あれ彼氏でしょ？もうアレ用済みだから
ここでお別れ宣言しな」

「…♡はい♡
クン…今まで騙してて
ゴメンナサイ…私…これからは
おじ様のお…マソ雌オナホ女として
生きていくからあ…今までありがとう♡
もっ…もうイベントも来ないでねっ…」

「それじゃ
バイバイ…♡」

最後まで
見てしまった後悔と
何故か無性にその動画で
シゴってしまった
自分への嫌悪感と快楽とで
頭がぐらぐらと揺れた…

その後—
あみちゃんは大学を辞め
音信も不通になった…

僕はもう…
あの謎のおじさんが
運営するサイトでしか
好きだったあの子の
近況を知ることが出来ない

